

「三宝通信」法話

浄土宗 天上山 大念寺

住職 大島祥明



上昇気圧は死に神？

昔から言われているように、夏場の気温上昇によつて亡くなる方が増え、冬場は下がることで多くなります。温度差が病人や衰弱している人に対して大きな影響を与えているのです。夏は内臓系の病気が、冬は心臓病とか脳内出血が多くなり、一年を通じて、気候のよい五月ごろとか十月ごろには亡くなる方は少なくなります。

しかし、温度差だけで

乱高下する日もあります。

のときも多いのです。

〇〇四〇ヘクトパスカルも

気圧が低いのに良い天気

町に新寺移転。

八年前から気圧計を購入して眺めております。一気圧は一〇二三ヘクトパスカルです。気圧が上昇してくると死亡者が多くなり、気圧が安定し、下りだすと少なくなります。日々、あまり変化しない時ときもあれば、一日で三〇〇ヘクトパスカルも

私の葬儀の統計により、要は、天気図の高気圧区、今日は東京下町、明日は千葉県北西部へと。そのときどきで移動の方

大阪市生まれ。仏教大学、同大学院修了(文修)、浄土宗僧正。87年12月、船橋市上山町に大念寺開山。08年5月、同市馬込

区、今日は東京下町、明日は千葉県北西部へと。そのときどきで移動の方

▽同著の問い合わせ
03 532395622
1 (PHP研究所書籍 第一部)

ていように感じます。たとえば昨日は多摩地区、今日は東京下町、明日は千葉県北西部へと。そのときどきで移動の方